

令和1年7月8日

京口門だより No. 69

おそい梅雨入りから早や七月をむかえました。七月のはじめは半夏生(ハンゲショウ)といって、ちょうど田植えが終わったところに、田んぼや畑の近くにカラスビシャク(半夏)という植物が生えてきます(下図)。人気のない原野には生えないといわれ、ドクダミとおなじ種類のカラスビシャク(半夏)という薬草です。毒草ともいわれますが、半夏の丸い地下茎は重要な漢方薬として用いられます。「降りぬきし空のうつろや半夏生」(渡部杜羊子)

先月は東洋医学の学会が東京であり、皆様にはご迷惑をかけましたが、私も漢方の医学史のシンポジウムの座長をしてきました。四千人以上が参加した学会でした。漢方薬や鍼灸についての発表やシンポジウムも開かれました。

整形外科領域の腰痛や腰部脊椎管狭窄症に漢方薬や鍼灸で効果をあげた例がいくつかありました。腰部脊椎管狭窄症は比較的好く見られる病気で、腰下肢の痛みと間歇性跛行(かんけつせいはこう)といって、5分から10分歩くと、腰から下肢が痛んだりシビレてきて歩けなくなり、しばらく休むとまた歩けるという典型的な症状を起こします。腰の狭窄部の血行障害が原因といわれています。初期の腰部脊椎管狭窄症を漢方薬で著しく良くなった例や鍼治療が有効であった例も発表されていましたが、当院では初期の腰部脊椎管狭窄症には腰部の灸治療が著しく効果があることを経験しています。

最近はお灸というと熱いとか跡がつくなどと毛嫌いされる方も多いですが、もう何千年前から用いられている治療法で大変効果があります。とくに手足の腱鞘炎には大変効果的で、長引く腱鞘炎には現代医学では手術をおこなうことが多いですが、その前に腱鞘炎を起こしている部位に小さなお灸をいくつかしてゆくとすっかりと治ってゆきます。先日もある外科のドクターでしたが、マラソンが趣味でよく走っていたら、足の裏が痛くなり、歩くのも立っているのもつらく、仕事や日常生活に支障をきたすようになりました。同僚の医師に診てもらい鎮痛剤を投与され、そのうち治るよといわれたのですが、一向に改善をみず、私に相談がありましたので、足の裏の痛む場所にお灸をしてもらいましたら、ほんの数日ですっかり良くなりました。驚いていましたが、お灸の効果はそのようなものです。

